

第3回投票環境の向上に関する検討会

資料編

第2回検討会での主な発言要旨

○今後の期日前投票等のあり方について

(1) 今後の期日前投票所のあり方

ア. 各区の特性に合わせた期日前投票所の検討

- ・前回の発言で、期日前投票所について皆が行きやすい場所にと要望したが、今回の衆院選で利便性がよい場所に設置されていることが分かったので、前回の発言を訂正したい。

イ. 集合型（複数区型対応）の期日前投票の設置

- ・複数区型期日前投票所の設置は非常にありがたい。

ウ. 投票所の環境整備（混雑状況の緩和対策）

- ・意見なし

(2) 高齢者や障害者等の交通弱者への対応

- ・前回のドライブスルー方式の提案については、距離が障害になっていることではなく、高齢者を車から車いすに移す移乗が大変という意味で提案させていただいた。
- ・投票所への移送手段として、福祉有償運送に期待する声があるが、実際には運営が厳しく、やめていく団体もある。これらの現状を把握してからの対応をお願いしたい。

(3) その他の意見

- ・投票を終えた後に、事務従事者等から「お疲れ様でした」等の声掛けをすることで、投票に行って良かったという感覚が植えつけられ、次回の投票にも繋がるのではないかと。
- ・期日前投票が増えるにしたがって、当日投票所（市民センター等）に間違えて投票に来る人が多くなったので、もう少し分かりやすく周知してほしい。

○主権者教育の更なる仕組みづくり

【主権者教育と投票行動について（教育関連委員）】

- ・主権者教育は、子供に自らの行動がどのように社会に影響を及ぼすか、どのように行動すべきか、をしっかりと考えさせて、様々な社会参画へとつなげていくことを目的にしている。
- ・子供に、直接、投票を促すことを一義的に行うものでない。
- ・将来における投票行動は、それら主権者教育によって、子供の心の中で培われた大きな成果の一つである。

【成長段階にあわせて主権者教育（教育関連委員）】

（小学校）

- ・社会を知ることなど初歩的な内容。
- ・小3、4年生は、直接まちに出て、まちのことをよく知る段階。小6年生で本格的に議会の役割など政治について学び始める。

（中学校）

- ・小学校の学習を基に民主政治について学ぶが、選挙については、中3年生で、公民で日本の選挙制度や若者の投票率が低いことなどを学ぶ。
- ・また、多くの学校で生徒会役員選挙において立会演説や投票を行っている。選挙管理委員会から投票箱や記載台などを借りて生徒会役員選挙を行っている。

（高校生）

- ・各学校単位で指導計画を作成し、「主体的に考え行動する力」、「社会への参画」を目標に、主権者教育を行っている。
- ・主権者教育を通じて投票行動を含めて様々な社会参画につなげていく。学校行事も主権者教育の一環としてとらえ、運営を通して「主体性を身に付ける」ことで社会参画につなげるように工夫している。
- ・実際に選挙が執行される時期には、たとえばSNSの発信を通じて法に抵触する可能性もあるので、選挙権を持つ生徒がやっといういいこと、悪いことを教えている。
- ・高校では、来年度から新学習指導要領による授業が始まる。新しい科目「公共」ができ、これまで以上に公民としての資質や能力の育成が求められる。
- ・政治だけでなく、成人としての責務も出てくる。
- ・学校現場は多忙であるため、きちんとこれらを機能させられるかどうか課題。

【学校での教育】

- ・18歳、19歳の投票率は20代、30代よりも高いことから、主権者教育は十分効果があるように思えるが、実体験から、選挙に関する主権者教育は、現代社会の授業で1時間だけで、政治という大きいことを扱うには時間が足りなかった印象がある。
- ・選挙に前向きな子供は、学校の授業とは別に、朝会など、いろいろなタイミングで教師から、人権、選挙等についての「ちょっとした言葉」が心に残っている。一方、選挙に行かない子供は、選挙のことはタブーだと思っている。選挙への意見自体は持っているが、それを言う場がない。
- ・深い学習をしようと思えば、繰り返しの学習が身になっていくため重要である。

- ・ドイツでは、国の政策について学校の中で話し合う。政治を身近に感じている。子供たちの心に残るのは、教師が自分たちのこととして語るのも、これこそが主権者教育の要である。しかし、日本では、教師、公務員の方は中立性といった壁がある。主権者教育を推進する教師の立場を守らなければならない。
- ・模擬投票、意見交換を行う授業が殆どないのが気になる点。学校現場の教師が言いにくいことがあれば、地域の団体や議員が学校に馳せ参じて、高校や中学の主権者教育を展開していくことも可能。もう一歩前に進んでもいいのかなという印象がある。

【体験型教育】

- ・学内の生徒会選挙活動で、広報活動とかPR動画の作成を子供自らが行う。そうした体験が投票行動につながると考える。
- ・小学校の社会見学で議場見学を何校か行っている。直接議場を見学する、議場の中で議員に説明を聞く機会が充実すれば、選挙をもっと身近に感じることができるとは思えないか。
- ・体験がとても大事。立会人や選挙事務のアルバイトは有効。システムとして組み込めないうか。主催者側になるので意識は違ってくる。
- ・障害者は周囲の人達がいろいろやってくれるので、自分で決めなくてもなんとかなる。自分の考えをもつことを経験していない。今後は、障害者も自分で考えるようにしていくことが重要。
- ・学校教育の場だけの主権者教育は難しいのは確か。青年会議所では、来年度、若者の社会参画意識向上委員会を立ち上げて、議員の普段の行動を学生さんに知っていただく、興味を持っていただくアプローチを検討中である。

【家庭との連携】

- ・保護者（PTA）として、議会等とくに足を運ぶなどの実体験をさせる活動が出来ればと思っている。
- ・PTAで、保護者向け研修会をしたことがある。これも重要と思っている。
- ・家庭の中で、政治の話をする事、そして、学校で友達と話しをすることが大事。
- ・子どもから選挙に行ったのかと聞かれたことがある。行かなかったと言うと、「軽蔑する」と言われてショックを受けた。子どもへの教育とは逆に、家庭内に子どもから行動するという考え方もあるのではないか。

【学校外との連携】

- ・地域や民間の活動の場を、できるだけ学校でできないか。家庭環境などいろいろな立場の子でも参加しやすいように。
- ・学校で主権者教育すべてを行うことはできない。学校に任せっ放しにするのではなく、逆に地域から学校に出向いて、教師とともに教育するのは良いのでは。
- ・大学と高校が連携する仕組みが必要と考える。また、大学生が学校に来て、話しをしてもらおうと小中学校でも食いつきが良い。
- ・大学としても、地域貢献が求められている。高大連携等も必要と感じている。
- ・学校だけに任せるのではなく、地域全体で、この町をどうしていこうとか、日常的な会話の中から生まれてくるのかなという気がする。

【情報提供】

- ・投票率の低下の問題は、裏を返せば世の中に対する無関心の現れ。子どもたちにぜひ、ニュースに関心を持って、世の中に関心を持ってもらいたい。ニュースや新聞を見てほしい。SNSは自分が興味のあるものだけを選択する。幅広く情報を取るといったことのアドバイスが必要ではないか。
- ・情報の受け取り、情報のリテラシーが主権者教育の中でできるようになると効果的。

令和3年12月議会 本会議での要望

- ・市内であれば唯一の市立である（北九州市立高校の）生徒を期日前投票所や当日投票所においてお手伝いをして頂くということで、選挙に対する意識を高めることができるのではないかなという風に思っています。検討会でも、そうした内容の趣旨も議論していただければという風に要望させていただきたいと思っています。
- ・選挙の時期というのは、飲食店の方々からよく聞くんですけれども、選挙になるとパタッと夜の足が止まると。変に飲食しに行くとか選挙違反に問われるんじゃないかということをよく聞いて、急に夜が寂しくなったりとかいうこともあるらしくて、そういったところを選挙割をもっと活用したらどうかなと。そうなれば、投票した後ですので、そういう疑いも無くなるんじゃないかなと思いました。
- ・投票済証に関しても、今までは色とかを変えてきただけなのが、何回か前からデザイン化されて、そういったものは恐らく先ほども言いましたように何十年に1回の物なんだなと思います。そうすれば、漫画ミュージアム等でデザインしたやつを投票済証にすれば、子供というか、子供が受け取りやすいキティちゃんもそうですが、デザインがいい方が良くないかという風に思ってます、相乗効果が出るように検討して頂きたいという風に思います。

選挙時啓発事業の主な内容（R3.1 市議会議員選挙）

1 WEBの活用

- ・市ホームページ（特設サイトの開設）
- ・市公式SNS（ライン、ツイッター、フェイスブック）
- ・動画サイト（ユーチューブ）、SNS（ライン）への広告掲載
- ・投票ショートムービー動画の掲載
- ・オンラインイベントの開催
- ・ツイッターキャンペーンの実施
- ・市内各大学ホームページへのバナー広告

2 イベントの開催

- ・オンラインイベントの開催（再掲）
- ・ツイッターキャンペーンの実施（再掲）
- ・ハローキティPR開始宣言式
- ・成人式会場でのフォトパネル設置
- ・ポスターコンクール表彰式及び模擬投票イベントの実施

3 広告（周知）

- ・テレビ、ラジオCM
- ・市政テレビ、市政ラジオ番組での周知
- ・新聞広告
- ・市政だよりへの掲載
- ・フリーペーパー（ナッセ、リビング北九州等）への掲載
- ・交通広告（JR、西鉄バス、市営バス、モノレール）の掲出
- ・大型ビジョンでのCM放送（JR小倉駅、若松競艇場など）
- ・区役所等での看板、懸垂幕の掲出
- ・消防車等の大型公用車に車体幕の掲出

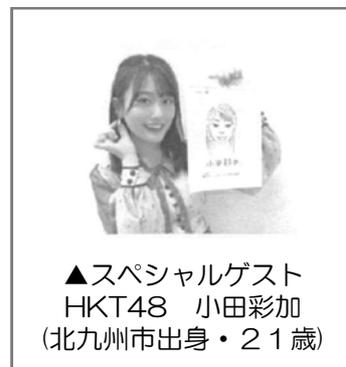
4 その他

- ・市役所、区役所での庁内放送
- ・区役所窓口に啓発物品を設置
- ・商業施設での館内放送
- ・公共施設、デパート、スーパー、病院等でのポスター掲出
- ・PTA広報誌に啓発記事を掲載

◎選挙時啓発（R3.1 市議選）のうち WEB を活用した事業内容

1 オンラインによるトークライブイベント

- 日時 令和3年1月23日(土) 14:30~16:30
- 媒体 ・WEB 会議サービス「Zoom(ズーム)」
・動画共有サービス「YouTube(ユーチューブ)」
- 内容 ・スペシャルゲスト (HKT48 小田彩加さん) によるトークライブ
・若者に人気のある SNS ユーザー3名と、一般参加者9名の討論会
- 実績 ・300人参加



2 ライン・ユーチューブ等を利用した PR 動画等の配信

- 日時 令和2年12月10日(木)~令和3年1月31日(日)
- 媒体 「LINE(ライン)」 「YouTube(ユーチューブ)」
- 内容 ・特設 WEB サイトに誘引する広告を掲出
- 実績 ・LINE バナー画像広告
LINE 広告表示回数 約300万回
・YouTube 6秒スキップ不可動画広告
YouTube 動画再生回数 約62万5千回



3 ツイッターを使った「北九州市議選大喜利」

- 日時 令和2年12月10日(木)~令和3年1月31日(日)
- 媒体 「Twitter(ツイッター)」市議選特設 WEB サイト
- 内容 ・お題に対する大喜利をツイッターで投稿してもらう
・投稿作品の中からグランプリ作品を決定
・投稿された作品は随時、特設 WEB サイト上で公開
- 実績 168投稿



4 その他 WEB を活用した PR

- 特設 WEB サイトの開設
- ショートムービー制作「選挙にガチ投票してみた」約400回再生
- 市公式 Twitter すきっちゃ北九州 (ハローキティのテレビ CM 動画)
・約9,700回再生、うち7,370回は投票日
- 大学ホームページバナー広告掲載
・九州工業大学、北九州市立大学

他都市の選挙啓発事例

(1) 名古屋市「ワカモノによるワカモノのための選挙啓発事業の募集」

・主催

名古屋市選挙管理委員会

・概要

若者が政治や選挙に関心を持つように促す効果的な啓発事業(常時啓発、選挙時啓発)を募集。採用された場合は、1事業につき10万円を支援。

名古屋市内に所在する大学・専門学校等に在籍する学生が構成員の過半数を占める団体・グループが企画・実施する事業が対象。

・対象事業の一例

高校生大学生向け啓発チラシの作成配布、高校生を対象とした出前授業、シンポジウムやワークショップの企画運営、SNSや動画を使った啓発、入学式や大学祭等での選挙啓発ブース出展

(2) 宮崎県「ワカモノに届く！届ける！選挙啓発動画作品募集」

・主催

宮崎県選挙管理委員会

・概要

作品を視聴した若者が選挙に対する意識を高め、意思表示するきっかけとなる内容の作品を募集。審査を行い、表彰(ギフト券進呈)を行う。

宮崎県内に在住又は通学・通勤している高校生以上の個人又はグループ(プロ・アマ問わない)。

・選考基準

選挙の意義等の意識向上に資する内容

斬新な発想の内容

若者が理解しやすい内容

(3) 神戸市「LOVE・VOTE・KOBE オリジナルステッカープロジェクト」

・主催

神戸市選挙管理委員会、一般社団法人 NO YOUTH NO JAPAN

・概要

大学生を中心とし、若い世代の政治参加をより身近なものとすることを目指して活動している団体「NO YOUTH NO JAPAN」と連携し、20歳代の若年層をターゲットとして実施された取組み。

令和3年度は県知事選、衆議院選及び市長選挙が執行されたため、選挙ごとにデザインの異なるオリジナルステッカーを希望者に配布。同時に、3枚のステッカーを貼れる台紙も配布。ステッカーのQRコードからタレントの「投票お疲れ様」動画が見られる。



神戸市選挙管理委員会
ホームページより

(4) 明るい選挙推進協会の取組み

・主催

新宿区明るい選挙推進協会(東京都)

・概要

昭和 32 年に設立され、現在、協議会委員 24 人、推進委員 105 人で活動している。区内 10 地区ごとに 1 ～ 2 人の協議会委員、6 ～ 14 人の推進委員を配置し、地区単位で活動している。協議会には啓発・研修・広報の各専門委員会が設置され、それぞれの分野での推進委員の活動について企画立案を担っている。

・実施された主な取組み

〈「地域センターまつり」「ふれあいフェスタ」〉

会場等での啓発活動 各地区で行われる「地域センターまつり」会場に「明るい選挙推進コーナー」を設け、選挙クイズや親子スタンプラリー、選挙に関するアンケートなどを行っている。また、毎年 10 月に開催される区最大のイベント「ふれあいフェスタ」では、「めいすいくんジャンケン大会」や平成 26 年度からは大学生グループとともに「新宿区ゆるキャラ総選挙」「区立公園人気投票」などの模擬投票ブースも出展している。

〈小学 6 年生向け出前授業・模擬投票〉

25 年度から小学 6 年生向けに出前授業・模擬投票を行っており、推進委員が模擬投票の投票管理者・投票立会人として参加し、区内大学の学生が講師や模擬投票の候補者役を担っている。小学校の評議員などを務める推進委員を通じた周知が功を奏し、27 年度は前年度の 4 校から 10 校に拡大した。

〈地区別懇談会の開催〉

協議会委員・推進委員と選挙管理委員会が話し合う場として、24 年度から各地区において地区別懇談会を毎年開催している。地域で啓発をするに当たっての問題点、投票所運営のあり方、地域センターまつりの出展内容について話し合っている。

〈成人式会場での啓発〉

「新成人立会人募集コーナー」を設け、選挙時の投票立会人の募集を行っている。毎年 20 ～ 40 人の応募があり、立会人を務めている。その他に、「お楽しみくじ引き」「新成人モデル募集コーナー」のブースを設けている。

〈区議会傍聴〉

地域の政治を知ることが目的に、26 年度から推進委員研修の一環として、年 4 回の定例会の傍聴を実施している。

(5) 自治会の取組み

・主催

逆瀬川マンション自治会(兵庫県宝塚市)

・概要

自治会員の半数が61歳以上の高齢化が進む地域。自治会の所属する投票区の投票率が思った以上に低く、市内でワースト3に入ることになり驚き活動を開始。周辺自治会や他のマンション管理組合と協力・連携しながら投票率向上に取り組むこととし、住民が投票しやすいよう、さまざまな工夫を凝らして活動。

・実施された主な取り組み

〈 投票所巡回バスの運行 〉

投票区の区域は、東西にとっても長い上に高低差も100メートル以上あり、高齢化が進むこの地区では投票所に出向くことが困難な人が多い。そこで22年参院選時に、周辺8つのマンションが資金を出し合い、投票のための巡回バスを運行することとした。バスは市のスクールバスを借り、朝9時から夕方5時まで17往復した。マンション群の6カ所に乗降場を設け、目印にのぼりを立て、世話役が案内をした。

〈 投票所の運営は地域の責任で 〉

投票管理者は、投票所所在地である逆瀬川マンションの住民の中から責任を持って選出し、投票立会人については投票区内の10団体(自治会、マンション管理組合)が輪番制で選出している。

〈 駐車場の設置 〉

投票区は広い上に高低差もあるため、投票所に行くには自動車、バイクが不可欠。しかし、投票所周辺の道路は狭隘なため、車での往来と投票所周辺での駐車は、住民にとってとても危険なものとなっていた。そこで地域で協議し、住民と投票する人たちの安全確保のために、マンション住民が使用している駐車場を投票に来る人のための駐車場とすることとし、投票日に空けてもらうように住民に個別に理解を求めた。駐車場の整理や誘導などは、マンション住民がボランティアで行っている。

〈 楽しい投票所づくり(明るい声掛け等) 〉

投票所に来場した子どものお土産として、有志で作成した手作りの竹とんぼを投票所出口に置いている。投票は楽しいと思ってもらうことで、将来の投票率の向上につながればと考えている。また、投票に来た有権者に対し、投票管理者、投票立会人から「おはようございます」「ごろうさまでした」などと、必ず明るく声掛けを行っている。

〈 問題意識の共有 〉

選挙終了後に反省会を開催し、問題の共有化を図っている。住民に対しては、回覧板で選挙ごとの投票率などの結果を知らせている。また、選管から配布される啓発カレンダー等をマンションの掲示板に掲出するなど、日頃から住民に対しての啓発を行っている。

(6) 大学生の取組み

・主催

TCUE投票ファクトリー

・概要

平成 25 年参院選に際し、若者の働きかけによる地域の投票率向上を目的として、群馬県高崎市にある高崎経済大学の増田正教授のゼミナールの学生が中心となり設立された。企画から運営までを学生が担い、主に若者の投票率向上を目指す活動を行っている。会員は同大学の学生 35 人。

・実施された主な取組み

〈若者向け投票啓発チラシの作成と配布〉

26 年衆院選等の国政選挙や 27 年高崎市長選で、若者に向けた投票啓発チラシを作成した。難しい表現を避け、必要最低限の情報を盛り込み、投票方法を描いた 4 コマ漫画を加えて視覚に訴えるようにした。チラシは大学構内や高崎駅前配布した。

〈候補者へのインタビューと内容の公開〉

27 年市長選と 28 年参院選では、若者が政治を考えるきっかけづくりのために、候補者へのインタビューを行った。市長選ではすべての候補者に立候補理由や政策についてインタビューを行い、撮影した内容を YouTube に投稿した。参院選では、候補者に立候補理由や人柄を中心としたインタビューを行い、その内容をまとめ SNS 上に公開した。

〈小学校、大学での模擬投票〉

27 年から市青年会議所と協力して、児童に選挙を考えてもらうため、市内小学校で模擬投票を行っている。TCUE は当日の司会・講師と候補者役を担当し、27 年は 3 校、28 年は 4 校で実施した。また、大学の学園祭に合わせて、架空の市長選の模擬投票を実施(ゼミとして 22 年から、25 年からは TCUE が)。メンバーが選挙公報を作成し、模擬投票では当選者の確定まで行った。5 回の模擬投票で計 1,629 票が集まり、校外の人も多く投票した。選挙機材は、高崎市選管から提供を受けた。

〈高校生と意見交換会〉

28 年に、群馬県高校生会議と共同で意見交換会を実施した。班ごとに分かれ、理想の主権者教育について話し合った。参加した 10 代から 80 代までの様々な世代の視点から鋭い意見が数多く出され、それをまとめ全体で発表会を行った。

(7) 高校生の取組み

・主催

香川県立高松東高等学校新聞研究部

・概要

高松市にある同高新聞研究部は、学校新聞を年4回の定期号と4回の号外を発行し、生徒や保護者に校内外行事や特集記事等を掲載し届けている。平成27年に18歳選挙権が成立したことから、生徒に政治や選挙に関心をもってもらうため、以下の記事等を作成・掲載した学校新聞を発行した。

・実施された主な取り組み

〈「高松東高校新聞」第279号(平成27年9月29日発行)〉

特集「考えよう18歳の選挙権」…全生徒や保護者に選挙への意識調査を行ったところ「選挙に行かない」と回答した者が6割を占めた。そこで、香川県選管に選挙の意義や18歳選挙権についてインタビューし、また役員選挙を経験した生徒会役員の座談会記事を掲載。「高校生議会」の開催予告。

※「高校生議会」

高校生に選挙や政治、地方行政への関心を高めてもらう「高校生議会」(香川県議会主催)が、県議会本会議場で開かれた。県内の公立・私立の42高校を選挙区(各定数1)に見立て、選挙で選出された生徒42人(1、2年生)が議員として出席。議長、副議長役も生徒が務めた。5つの意見を高校生議会の決議文として浜田恵造知事と辻村修県議会議長に提出した。

〈同第280号(27年12月11日発行)〉

「高校生議員」選出選挙…10月に「高校生議会」の参加代表を決める校内選挙が行われ、同議会のテーマ「地方創生」への3人の立候補者の選挙演説を取り上げた。学年ごとに投票所を設け投票の実体験をした様子を、生徒の感想も交え、紙面で伝えた。

〈同第281号(28年3月3日発行)〉

「高校生議会」の報告…28年1月に行われた「高校生議会」での本校代表の提案や議会の様子を紹介し、本校議員の活動を伝えた。

〈同第284号(28年9月29日発行)〉

特集「18歳選挙を終えて」…7月の参院選終了後、3年生で選挙権があった生徒を対象にアンケートを実施し、男子が70%、女子が50%の投票率であったことを掲載した。さらに、県選管で取材を行い、今回の選挙を検証した。

(8) PTAの取組み

・主催

多摩第一小学校PTA(東京都)

・概要

小学校6年生を対象に選挙のしくみや意義を学ぶ「模擬投票」を実施。学校や選挙管理委員会の協力のもと、「給食の食べ残しを減らす」をテーマに給食大臣を選ぶという設定。3人の候補者が問題解決策を掲げ、児童たちがどの候補者の施策を支持するかという内容。候補者の演説のあと、その場で指名された児童が応援演説を行った後、本物の記載台や投票用紙、投票箱を使用して投票。

(9) 民間団体の取組み(その1)

・主催

NPO法人 NEXT CONEXION

・概要

シティズンシップ教育を通して人々の交流を促進し、それを人々の社会参加や地域活性化につなげ、より良い社会の形成に寄与することを目的に、平成24年に愛媛県松山市に設立(26年NPO法人化)。弁護士、愛媛大講師、学生など17人で活動している。

・実施された主な取り組み

〈civic-10歳からのシティズンシップ教育〉

子どもたちの自主性・協調性・想像力を育むことを目的に、世の中の仕組みに関心を持たせ、世の中への参画意識を育てる教育プログラム。具体には「もしも自分の町で震災が起こったら何ができるか」をテーマに、震災マップを作成したり、街づくりボードゲームを使用して「理想の街」を考えるなどで、これまでの5年間で30回以上実施し、のべ400人の児童生徒が参加した。

〈高校での共同プログラム〉

松山市の私立聖カタリナ女子高等学校と共同で、高校3年生を対象にシティズンシップ教育を実施している。週に2回の政治経済の時間を使い、ワークショップ形式の授業と、教科書を使った授業を実施している。ワークショップ形式のテーマは「18歳選挙権を基に、子どもはいつから大人になるのか」や「大きな政府、小さな政府」などで、市選管をゲストに模擬投票なども行っている。

〈Voters Barの実施〉

NPO法人YouthCreateの協力のもと、若者が政治家と気軽に語り合うVoters Barを実施している。ゲストとして、愛媛県議・松山市議などの地方議員が参加した。参加者は中学生から社会人まで幅広く、世代間交流の場ともなっている。

〈松山市選管への協力〉

松山市選管とは選挙啓発活動において協力関係にあり、27年の愛媛県知事・松山市長同日選挙の際に、子どもたちが中心となった選挙啓発活動を実施した。また子どもたちと一緒に投票所へ行くツアーも実施した。

〈E-NEXT-高校・大学生の学びあいの場〉

高校・大学生を中心とした、シティズンシップ教育に関する学びあいプログラムを実施している。自分という「個人」から世の中を考える、をテーマに、実際に社会で活躍されている社会人の方を招き、意見交換などを行っている。

(10) 民間団体の取組み(その2)「センキョ割」

・主催

一般社団法人選挙割協会 (株式会社 ワカゾウ)

・概要

全国の選挙割を実施している企業等や各地域での選挙割実行団体と連携し、ホームページや SNS 等で紹介。

運営を担う学生実施委員会と各地域の主催者、選挙割協会が中心となり、若者の政治参加のきっかけづくりと選挙を地域活性化に活用することを目的に活動。地方選挙ごとの選挙割実施店舗も紹介。

・参加企業

一風堂、ワタミ、ヴィレッジヴァンガード(雑貨店)、各地域のセンキョ割実行委員会等



(センキョ割の概要は別紙参照)

<https://senkyowari.com/>

・各地域の活動

〈館林市選挙割〉 公益社団法人館林青年会議所

期日前投票期間から投票日以後2週間、協力店で選挙割を実施。

〈霧島市選挙割〉 霧島商工会議所

飲食店での実施。衆議選投票日から12月31日まで実施。

〈古賀市選挙割〉 NPO 法人 古賀すたいる

2015年の市議会議員選挙から、継続的に実施。

〈世田谷区選挙割〉 下高井戸商店街

商品の割引や商店街のスタンプ2倍などを実施。

〈10代限定選挙割〉 イオンシネマ新潟3館

投票済証、年齢証明書等の提示でドリンクとポップコーンをプレゼント

(別紙:衆議選でのセンキョ割ホームページから抜粋)

2021 October

センキョ割 @衆院選

VOTING REWARDS

Your Voice Your Benefit

センキョ割の使い方

10/31(日)に投票する。

1

2

3

4

サービスを楽しむ!

投票日 10月31日

ともかくまえ合うセンキョ割でお得に応援を!

【いつ、どこで使えるの?】
サービスは投票日の投票箱が埋まってから出されます。センキョ割に併せていたいた色紙を貼ってください。一部限られた店舗でサービスが受けられます。サービスの利用は、お店ごとに異なります。

主催:センキョ割学生実施委員会
一般社団法人選挙割協会

詳しくは
センキョ割HP
<https://senkyowari.com>

投票後、投票済証明書や撮った写真がクーポンの代わりとなり、参加店でオトクが楽しめる！それがセンキョ割です。ジャンルの枠に収まりきらぬ、個性の光る素敵なお店がいっぱいです。センキョ割の期間は原則たっぷり2週間あります。この機会に、センキョに行ってお買い物や各種イベントやライブなどを楽しむのなんていかがでしょう。

===よくある質問===

Q 期日前投票でも使えますか？

A はい！ご利用いただけるお店も多数あります！

Q 投票した地域じゃなくても使えますか？

A はい。北海道や九州でも、投票所で撮影した写真なら全国どこでもお得なサービスが受けられます♪

(参院選や衆院選、統一地方選挙の時は、全国でセンキョ割を開催しているので、全国どこでもお得なサービスが受けられます♪)

Q 写真って、どのように取ればいいの？

A 看板や、投票所と書かれた張り紙を背に、ご自身を撮影ください。もしくは投票所の看板と一緒に自分の顔か、学生証や免許証など自己証明書と撮影したのもでもOKです♪ (自撮り、恥ずかしいという声もありましたので)

(11) 民間団体の取組み(その3)

・主催

公益社団法人東京青年会議所

・概要

「主権者であるという自覚を発言する社会を実現する」ことをビジョンとし、市民が政治を我がこととして捉えることができるよう活動

・実施された主な取組み

〈衆議選での公開討論会〉

投票という最も基本的かつ注目度の高い政治参加に関する重要事業と位置付け、いわゆる3バン＝「ジバン(地盤)、カンバン(看板)、カバン(鞆)」による選挙ではなく、政策本位の投票活動が可能になるよう、候補者の政策やその実行能力、人柄といった情報を市民に提供。

(12) 個人の取組み「デザイナーによる非公式選挙グッズポップアップストア」

・主催

グラフィックデザイナー 古谷 萌

・概要

現代社会の問題や矛盾に対して自らの声を発信することを目的としたプロジェクト「vermilion(ヴァーミリオン)」として、令和3年の衆議院議員総選挙に合わせたポップアップストア「Go To VOTE」を東京都・渋谷で行ったもの。投票に新しいきっかけを作ることを目的に、「Go To VOTE」をテーマにしたオリジナルのTシャツ、ステッカーなどを販売。場内には記載台が設置しており、購入の際は、投票用紙を模した用紙に記入して注文するようにし、模擬体験ができるようにしている。また、ポスターは来場すれば無料で貰うことができ、若者が気軽に取組に参加できる仕組み。

